

## 【ビジョン】

# ここは日本なの？ ～人種のサラダボウルTSUKUBA～

## 【30年後の理想像】

つくば市を日本で最もグローバルな街として確立させ、多種多様な国の人々が共存する、「日本国内だが日本でない」ような街にする。ユニークな異文化交流や国際教育を通じて、市民は将来日本を担う国際的な人材になることができる。

### 重点政策①概要

#### 外国人「超」誘致政策

##### 【政策の目的】

様々な国の人々をつくば市に誘致し、多種多様な価値観を持った人が集まる国際的な都市を形成する

##### 【事業内容】

- ・都心勤務の外国人のベッドタウンに
- ・グローバルビルディング建設により、外国人の居住誘致
- ・市役所に多国籍対応の相談窓口を常時開設

##### 【費用】

- ・グローバルビルディング建設費補助：40億円
- ・グローバルビルディングサポートスタッフ人件費：2000万円
- ・市役所窓口開設：2000万円/年

### 重点政策②概要

#### 国境を越える学校

##### 【政策の目的】

つくば市内の小中学校、高等学校を国際的な人材の育成に特化した教育機関として確立させ、特に他言語教育と異文化交流に力をいれる

##### 【事業内容】

- ・早期からの英語教育
- ・英語での授業を取り入れる
- ・早期からの第二外国語教育
- ・異文化交流を授業で実施

##### 【費用】

- ・人件費：英語指導教員（各4人）  
その他外国語指導教員（各3人）  
語学サポートスタッフ（各3人）  
→計10人×20校（小:29校,中:12校。1スタッフが2~3校を掛け持つ）  
→合計5億円

### 重点政策③概要

#### 第三次異文化交流計画

##### 【政策の目的】

つくば市に在住する様々な国籍の人々の文化を、互いに楽しく学び理解する

##### 【事業内容】

- ・グローバルビルディング内交流スペースの建設（政策①に同じ）
- ・様々な分野の交流イベントを常時開設
- ・市の補助により、イベントを無料もしくは安価に提供

##### 【費用】

- ・グローバルビルディング内交流スペース建設（政策①に同じ）
- ・人件費：10分野×週2日（一人が複数分野を掛け持つ可能性あり）→合計1500万円/年
- ・イベント参加費補助：2億円/年

チーム名  
いまじんざふゅーちゃー

メンバー  
榎本由佳 竹中亜純  
中野景太 深海加奈

## ビジョン

# ここは日本なの？

## ～人種のサラダボウルTSUKUBA～

### 30年後の理想のまち

#### 【ビジョンが示す理想の状態】

- ・つくば市への外国人の居住を市が積極的に誘致し、つくば市を日本で最も国際化した街にする→日本国内だが、日本でないような街に
- ・小中学校、高校の教育機関では、英語に特化した授業や異文化交流の授業を通じて、多くの外国語を自在に操り、外国人と円滑なコミュニケーションをとれる国際的な人材を育成する
- ・市内で国際的なイベントや講座が常時多数開設されることで、市民相互が異文化理解を深め、多様な価値観を持つことができる

#### 【なぜ上の理想を実現したいのか？】

- ・社会では今後ますますグローバル化が進むであろうが、現在の日本には多様性を受け入れる風潮が十分でないため、つくば市をその先駆けの都市にしたいと思ったから
- ・つくば市は都内へのアクセスの良さや生活費の安さなどから、日本人だけでなく外国人にとっても十分にベッドタウンとして機能する。更に、つくば市は元々外国人の割合が多いため、より多くの外国人を呼び込みやすい環境にあるから

### 現実のまち

#### 【ビジョンと現状のギャップ】

- ・国際都市として確立させるために、より多くの外国人を誘致する必要がある
- ・現在市内に居住する外国人に対する支援制度が不十分なので、外国人に対する言語や生活面の支援制度を充実させる必要がある
- ・これからのよりグローバルな社会に適応する人材を育成する教育が十分でないため、早期・複数の外国語教育や国際交流の授業を通して、国際的に将来活躍可能な人材の教育をさらに推進させるべきである

#### 【現状が維持された場合の社会の姿】

- ・現在でも日本人は世界で活躍できていないが、このまま何も手を打たないと、グローバル化が進展した将来、日本人はいよいよ国際社会から取り残されてしまう
- ・グローバル化の流れに伴い、子どもに幼い時点から英語学習や異文化交流などの国際的な教育を受けさせたいという親は多いが、日本人の割合が圧倒的に多い自治体ではその実現がやや困難である
- ・都内での居住を希望する外国人が多いが、都内は家賃が高いため居住を断念してしまうケースが見られる

# 重点政策①詳細

## 政策名 外国人「超」誘致政策

### 政策の概要

#### 【政策の目的】

日本国内に居住を希望する外国人をつくばに積極的に誘致し、「人種のサラダボウルT S U K U B A」の実現を目指す。最終的には、日本で最も国際化した街として確立させる。

#### 【誰のための政策か】

- ・日本居住希望の外国人
- ・都心に勤務し、家賃が比較的安価な郊外のベッドタウンを求める外国人
- ・家族連れで居住を望む外国人

#### 【政策を実施する主体】

- ・つくば市

#### 【政策を実施する期間】

From now →Forever

### 政策の詳細

#### 【事業内容】 \*政策を実行するための具体的方法

- ・「国際都市つくば」としてのイメージを打ち出し、外に向けてアピール  
→広告等の宣伝を実施（SNSや、町中の広告等）
- ・外国人のつくば市内への居住を積極的に支援
  - －都心に比べて家賃が安価な居住지를提示、入居手続の支援
- ・つくば市民と外国人双方が居住する「グローバルビルディング」の設置
- ・つくば市内への移転によって伴う種々の手続の支援
  - －市役所に多言語対応の窓口を常時開設（英語、中国語、韓国語、スペイン語など）

#### 【政策にかかる費用】

- ・グローバルビルディング建設費補助：40億円
- ・グローバルビルディングサポートスタッフ人件費：2000万円
- ・市役所窓口開設：2000万円/年

#### 【政策による影響への対策】

- ・外国人増加による治安悪化
  - －文化の違いなどによるストレスから、外国人が非行に走る可能性あり
  - 外国人向けの相談所の設置
- ・国籍の偏りが懸念される
  - －現状の外国人の内訳をみると、中国・朝鮮系が約半数を占めている
  - 市内の大学が提携している欧米の海外大学や、姉妹都市から外国人を誘致する

# 重点政策②詳細

## 政策名 国境を越える学校

### 政策の概要

#### 【政策の目的】

つくば市の「国際化」に伴い、市内の教育を国際教育に特化させ、小中高の高水準な英語教育、外国語教育、更に外国人との異文化交流を通じて、将来の更なるグローバル社会に適応し、国際的に十分に活躍できる人材の育成を目指す。

#### 【誰のための政策か】

- ・市内の小中学生、高校生
- ・子どもに対する高度な国際的な教育を望む保護者

#### 【政策を実施する主体】

- ・市内の全ての教育機関
- ・国際交流を望む地域住民
- ・筑波大学の留学生

#### 【政策を実施する期間】

From now →Forever

### 政策の詳細

#### 【事業内容】 \*政策を実行するための具体的方法

- ・市内のほぼ全ての小中学校、高校をグローバルスクールとして設定し  
→特に国際的な人材の育成に力を入れた教育を行なう
- ・英語の小学校一年生からの授業開始
- ・英語での授業の採用
- ・第二外国語の小学校高学年からの授業開始
- ・週に何回か、国際交流の授業時間を設け、様々な国の文化を理解する
- ・異文化交流の授業に保護者も参加可能に  
→異なる国籍を持つ保護者同士の交流も促進
- ・児童の保護者並びに留学生を外国語の指導教員や国際交流の授業の講師として起用→雇用も発生
- ・日本語が十分でない外国人児童に対しては、母語の語学サポートスタッフが付いて補助

#### 【政策にかかる費用】

- 人件費：英語指導教員（各4人）  
その他外国語指導教員（各3人）  
語学サポートスタッフ（各3人）
- 計10人×20校（小:29校,中:12校。1スタッフが2~3校を掛け持つ）  
→合計5億円

#### 【政策による影響への対策】

- ・国籍が異なる児童・生徒間での摩擦発生  
→サポートスタッフの配置（生徒からの相談受付、各生徒への目配り、個人面談の定期的な実施）
- ・様々な言語に対応できる語学相談員の不足  
→外国人生徒の保護者や大学の留学生を雇用する

# 重点政策③詳細

## 政策名 第三次異文化交流計画

### 政策の概要

#### 【政策の目的】

つくば市に在住する様々な国籍の人々の文化を交流イベントを通じて楽しく学び、理解する。イベントでの経験を通じて世界の文化に深い知見のある住民を育て上げる。

#### 【誰のための政策か】

- ・つくば市民
- ・異文化交流を望む人々
- ・国際的な経験や知見を求める人々

#### 【政策を実施する主体】

- ・つくば市
- ・地域住民
- ・民間企業

#### 【政策を実施する期間】

From now →Forever

### 政策の詳細

#### 【事業内容】 \*政策を実行するための具体的方法

- ・異文化理解のための様々な種類の国際交流イベントを常時数多く開設。民間企業が参入することでよりアミューズメント性を備えた企画を提供できるため、参加者増加が期待できる
- ・子どもや学生、主婦、就業者、高齢者など幅広い年代の好みやニーズに応えた講座やイベントを企画・実施する
- ・市役所のコミュニティスペース及びグローバルビルディングに交流場所を併設して行なう
- ・世界各地の文化、芸能、ダンス、演奏、歌、スポーツ、料理、衣装、映画などを娯楽的に体験できる場とする  
例) メキシコチリソーススイーツ調理、韓国チマチヨゴリ試着、ノルウェーバブルサッカー体験、インド映画ダンス体験、世界各地の名映画鑑賞
- ・イベントに人々を呼び込むため、市がイベント参加費の補助を出す。

#### 【政策にかかる費用】

- ・グローバルビルディング内交流スペース建設（政策①に同じ）
- ・人件費：10分野×週2日（一人が複数分野を掛け持つ可能性あり）→合計1500万円/年
- ・イベント参加費補助：2億円/年

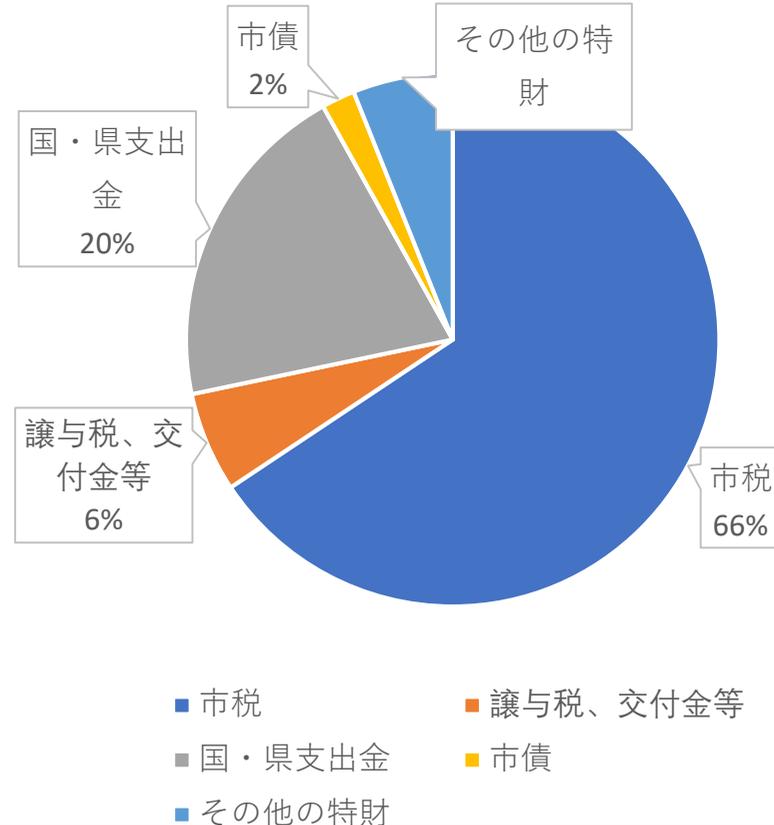
#### 【政策による影響への対策】

- ・イベントに市の補助を行なうことへの市民の反発→国際的な街つくばの構想を説明し、徐々に理解いただく
- ・多彩なイベントを常に提供することによる人手不足→元々雇用した人材以外に、住民や留学生の中で指導可能な人物を活用する

# 2029年の自治体予算

# 予算の算出の対策

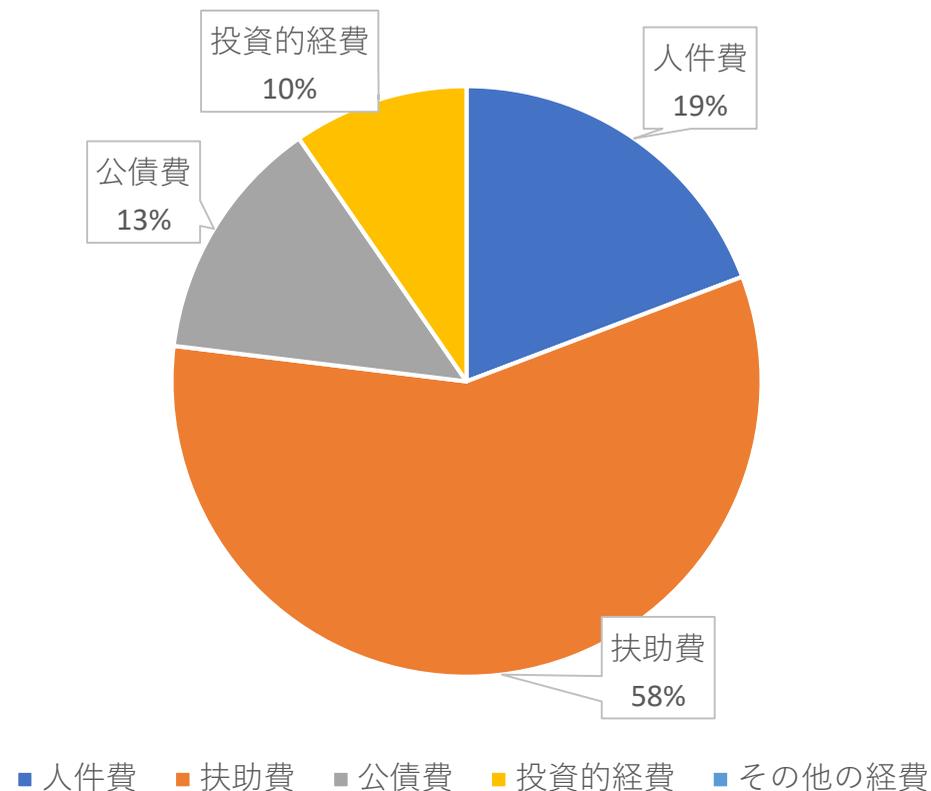
## 歳入の部



### 【重点政策予算の捻出方法】

- ・人口増加による市税の増加分から賄う
- ・国際交流イベントの住民の参加費を充てる

## 歳出の部



### 【現在の自治体予算からの変更点とその理由】

#### <歳入>

- ・市税：440億円→650億円（外国人居住者の増加による）

#### <歳出>

- ・人件費：160億円→100億円（AI技術の発達による）
- ・扶助費：150億円→300億円（1年間5億円のペースで増加）

### 【予算面の変革に伴う対策】

- ・扶助費の増大→外国人居住者の増加に伴う市税の増加と、AI技術の発達による人件費の削減で補う